



祝 600号記念対談!! みんなが住みたい街、藤沢のこれから



昭和51年(1976)9月1日、江ノ電百貨店(現ODAKYU湘南GATE)の開業の2年後に江ノ電沿線新聞は創刊されました。中村雅俊の『俺たちの旅』がテレビドラマの主題歌となって大ヒットしていた時代です。創刊以来、湘南ならではの文化と活気と豊かさ、そしてぬくもりが紙面を彩ってきました。

今回は、藤沢市の顔ともいえるお二方に、江戸時代から信仰の対象、また観光地として憧れの対象だった藤沢について、これまでを振り返りつつ、街の未来を語り合っていました。

【ご出席者】(敬称略)
鈴木恒夫(藤沢市長)
黒田聡(江ノ島電鉄株 代表取締役社長)

共通点はスポーツ少年!

鈴木 江ノ電沿線新聞600号、おめでとうございます。江ノ電沿線新聞さんは非常に歴史があって、地域の問題を取り上げていただきありがとうございます。作っている人の顔が見えるような文化的な話が多いので読みがいがあります。

黒田 紙ものを手に取って読む機会が減っている現代で、駅で江ノ電沿線新聞を手にとってホッとすることも多いかもしれません。これからの新聞であってほしいと思います。

藤沢という街

鈴木 藤沢は、東海道五十三次では江戸から数えて6番目の宿場町です。遊行寺の門前町として栄え、やがてそこが宿場町になって、大山道や鎌倉道などといった交通の要所となりました。街が栄えると、匠の技術を持つ人たちが集まってきて更に活気づきます。ただ、戦後になってからは近隣都市も商業で賑わってきて、藤沢市はちょっと遅れてしまったというところもありました。そこで藤沢駅も駅前を再開発したり、南口の区画整理をしたりと進めました。もともと藤沢駅は北口を中心に、古風な商店街がありましたけど、南口の方は畑ばかりだったんですよ。それで南口を再開発したら、今度は北口の人たちも再開発をしないで。それを当時は「南北戦争」なんて言ったりもしていました。そのうちに湘南台の辺りが賑やかになって、「南北で協力して街づくりに取り組もうよ」という流れになって今に至ります。



黒田 聡氏

黒田 私は藤沢に勤めだして2年目ですが、藤沢駅からちょっと行くと海です。働く場所でもあるけれど、同時にリラックスできる雰囲気もすごくあるような気がしています。

鈴木 そうですね。藤沢の街をヒッチサングル履きで歩いていると、なんとなく許されるというか、そういうオープンな文化がありますよね。

藤沢にはかつて「東屋」という旅館があり、例えば文豪だと、芥川龍之介、与謝野晶子、川端康成などの著名な方が頻りに滞在していたことがあったり、片山哲氏などの総理大臣も藤沢に住んでいらしたことがありました。ここは人を引き寄せる街でもあるのかもしれません。



鈴木 恒夫氏

鈴木 藤沢って昔からいろいろな人たちが受け入れてきて文化が作られてきたんですよ。全国的に活躍していたけれど、この街ではのんびり静かに、心を乱されないようにしていた方も多いいんじゃないかな。最近でも各地からたくさん引越してきていますよね。その方たちの力でこれからまた新しい藤沢の文化が作られていくのかもしれないですね。こういった傾向はかなり昔からのことなので、今に始まった話じゃないのかもしれないですね。

黒田 藤沢市の観光名所の一つは海水浴場ですが、僕は中学の頃から海での水泳「日本古式泳法」を続けていますね。「日本古式泳法」

ね。開発のために今の場所に移動してもらい、その結果、商業ビルが立ち並び、人で賑わう現在の南口駅前の姿になりました。贅沢な話ですが、JRの改札を出たら江ノ電さんの駅があった、車両の顔がすぐに見えていたら面白い景観になっていたかもしれないですね。想像しただけでワクワクします。

黒田 今は、JRの改札から江ノ電の改札までは距離がある上に、小田急線の改札も地上にしかなく、江ノ電がどこを走っているかはよくわかりませんよね。でも工事が終われば小田急線の改札が上になりますし、JR、小田急線ともにそのままでの階層で江ノ電に乗り替えられるようになるので、「江ノ島から江ノ電に乗り換えたな」と思っていたらいいことではないでしょうか。

鈴木 藤沢の歴史深い見どころとしては江ノ島と、もう一つ、藤沢宿がありますね。遊行寺周辺が舞台になった「小栗判官」(※3)なんかもあります。実は、藤沢市は登録文化財が神奈川県で4番目に多いんです。文化財が多く、歴史的なものも多い市なんです。観光に来るといって、やっぱり江ノ島を目的とされる方が多いんですけども、藤沢人としては遊行寺などの界隈も興味をそそるのではないかと思います。北部には観光農園地をはじめ自然も多いです。交通の便もいいし、藤沢市民の皆さまにも、藤沢市の色々な場所を訪れてみてほしいです。

黒田 江ノ電はかつて地域住民の移動の利用が7割、観光客が3割ほどでしたが、今はインバウンドが非常に多く、観光客が5割ほどまで増えてきたように思います。観光客が江ノ電に乗る理由は、移動のためというより、江ノ電に「乗ってみる」という体験自体が観光の一つの目的になっていると考えると、将来的には難しいです。将来はどうなるかわからないですけどね。ですので、現時点でのインフラを使っていろんなことができるのかという方向性で、今あるものを活かしながらも皆さんが楽しめるようにしていきたいです。

江戸時代からの人気観光地・藤沢

黒田 江ノ電はかつて地域住民の移動の利用が7割、観光客が3割ほどでしたが、今はインバウンドが非常に多く、観光客が5割ほどまで増えてきたように思います。観光客が江ノ電に乗る理由は、移動のためというより、江ノ電に「乗ってみる」という体験自体が観光の一つの目的になっていると考えると、将来的には難しいです。将来はどうなるかわからないですけどね。ですので、現時点でのインフラを使っていろんなことができるのかという方向性で、今あるものを活かしながらも皆さんが楽しめるようにしていきたいです。

鈴木 JRの駅から西にまっすぐ線路が延びているので、西の方向には高い障害物がありません。だから、高架橋もできて……とほとんど出来上がっているのは難しいです。将来するのは難しいです。将来はどうなるかわからないですけどね。ですので、現時点でのインフラを使っていろんなことができるのかという方向性で、今あるものを活かしながらも皆さんが楽しめるようにしていきたいです。

黒田 昔は遊行寺から江ノ島が見えたそうで、まさにここが江ノ島の入り口なんだというのがよくわかったんですよ。今ではもう、遠くから江ノ島の姿は見えないですが、だからこそ実際には見えなくても「南には江ノ島がある」という繋がりがあるように藤沢駅をアップグレードするのは重要なことです。

鈴木 昔江ノ電さんはもっぱら遊覧車として、藤沢に人が来てくれることは嬉しいことです。黒田 江ノ島は歌舞伎の「弁天小僧」(※2)の舞台になった地です。実は江戸時代からメディアでよく取り上げられている場所です。現代においても、アニメやドラマの聖地巡礼の地にもなっていますし、そういう土壌があることはすごく恵まれていますよね。普通はどうやってメディアに取り上げてもうらうか、街が売り込まないといけないんですよ。江ノ電の電車を走らせて撮影したいという申し込みに多々ありますが、すごく混んでいるので最近では希望に沿えないことも多いんです。

鈴木 藤沢の歴史深い見どころとしては江ノ島と、もう一つ、藤沢宿がありますね。遊行寺周辺が舞台になった「小栗判官」(※3)なんかもあります。実は、藤沢市は登録文化財が神奈川県で4番目に多いんです。文化財が多く、歴史的なものも多い市なんです。観光に来るといって、やっぱり江ノ島を目的とされる方が多いんですけども、藤沢人としては遊行寺などの界隈も興味をそそるのではないかと思います。北部には観光農園地をはじめ自然も多いです。交通の便もいいし、藤沢市民の皆さまにも、藤沢市の色々な場所を訪れてみてほしいです。

黒田 江ノ電はかつて地域住民の移動の利用が7割、観光客が3割ほどでしたが、今はインバウンドが非常に多く、観光客が5割ほどまで増えてきたように思います。観光客が江ノ電に乗る理由は、移動のためというより、江ノ電に「乗ってみる」という体験自体が観光の一つの目的になっていると考えると、将来的には難しいです。将来はどうなるかわからないですけどね。ですので、現時点でのインフラを使っていろんなことができるのかという方向性で、今あるものを活かしながらも皆さんが楽しめるようにしていきたいです。

鈴木 JRの駅から西にまっすぐ線路が延びているので、西の方向には高い障害物がありません。だから、高架橋もできて……とほとんど出来上がっているのは難しいです。将来するのは難しいです。将来はどうなるかわからないですけどね。ですので、現時点でのインフラを使っていろんなことができるのかという方向性で、今あるものを活かしながらも皆さんが楽しめるようにしていきたいです。

黒田 300形はまさに昭和の電車って感じですよ。現行のルールだと板張りは恐らく採用できないんですけど、走っている間はメンテナンスをしながら使っていきます。

鈴木 藤沢市への観光客とどういって、アニメやドラマで登場した場所への訪問を目的に来られる方も多いいです。藤沢は、テレビ番組や映像作品の舞台として取り上げられることも多く、私も極力見るようにしています。放送内容を知っておくと、藤沢のいろいろなところが注目を浴びているのか勉強になります。

大河ドラマには、藤沢をもうちょっと取り上げてほしいのではないかと感じています(笑)。『鎌倉殿の13人』も、今回の『べらぼう』も、萬屋重三郎の作る本に、江ノ島の観光案内も結構載っているらしいんですよ。まあなんにせよ、放送されたものをきっかけとして、藤沢に人が来てく

※1 藤沢のまちが、スポーツを楽しむ元気な市民であふれ、市民一人ひとりが「いつでもどこでも」スポーツに親しみ、生涯にわたって健康で豊かなスポーツライフを楽しめるようにする理念。

※2 弁天小僧助は、歌舞伎「青砥稿花紅彩画」、通称「白浪五人男」に登場。元は岩本院の稚児だった設定。

※3 長生院(遊行寺の本堂裏手)に伝わる小栗判官・照手姫の伝説。浮世絵に描かれたり、歌舞伎や浄瑠璃の演目としても親しまれてきた。